2005 年度 小委員会活動成果報告

（2006 年 2 月 11 日作成）

<table>
<tr><td>小委員会名</td><td>環境配慮型鉄筋コンクリート工事研究小委員会</td><td>主 査 名：野口貴文
就任年月：2004 年 4 月</td></tr>
<tr><td>所属本委員会
（所属運営委員会）</td><td>材料施工委員会
（鉄筋コンクリート工事運営委員会）</td><td>委員長名：田中享二
主 査 名：桝田佳寛</td></tr>
<tr><td>設 置 期 間</td><td colspan="2">2004 年 4 月 ～ 2006 年 3 月</td></tr>
<tr><td>設 置 目 的
各年度活動計画
（箇条書き）</td><td colspan="2"><u>設置目的</u>
日本建築学会標準仕様書・鉄筋コンクリート工事（JASS 5）の次回大改定に向けて、コンクリートの使用材料および調合の選定、コンクリートの製造・施工方法の決定、ならびに鉄筋・型枠工事おける材料選定および施工方法決定において環境負荷低減のために考慮すべき事項の抽出と環境負荷最小化のための対処方法について検討し、JASS 5 大改定に基礎資料とする。

<u>各年度活動計画</u>
2004 年度：
・ 環境負荷低減のために考慮すべき事項の抽出
➢ コンクリートの使用材料および調合の選定
➢ コンクリートの製造・施工方法の決定
➢ 鉄筋・型枠工事おける材料選定
2005 年度：
・ 環境負荷最小化のための対処方法についての検討
・ JASS 5 大改定に役立つ資料の作成
➢ コンクリートの使用材料および調合の選定
➢ コンクリートの製造・施工方法の決定
➢ 鉄筋・型枠工事おける材料選定および施工方法決定</td></tr>
<tr><td rowspan="2">委員構成
（委員名（所属））</td><td colspan="2">委員公募の有無：有</td></tr>
<tr><td colspan="2">野口貴文（東京大学）
小山明男（明治大学）
田村雅紀（東京都立大学）
石川嘉崇（電源開発）
依田和久（鹿島建設）
橋田 浩（清水建設）
並木 哲（大成建設）
一瀬賢一（大林組）
柳橋邦生（竹中工務店）
齋藤 博（東鉄工業）
原田修輔（住友大阪セメント）
大川 裕（エヌエムビー）
澤田英二（全国生コンクリート工業組合連合会）
金 貞美（東京大学）</td></tr>
<tr><td>設置 WG
（WG 名：目的）</td><td colspan="2">無し</td></tr>
<tr><td>2005 年度予算</td><td>50,000 円</td><td>ホームページ公開の有無：無
委員会 HP アドレス：</td></tr>
</table>

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）

刊行物 **（シンポジウム資料等は除く）**	無し
講習会	無し
催し物 **（シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）**	無し
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パブリックコメント等	無し
目標の達成度 **（当初の活動計画と得られた成果との関係）**	１．環境負荷低減のために考慮すべき事項の抽出 　委員会活動の前半において、鉄筋コンクリート工事の各段階において環境負荷低減のために考慮すべき事項を抽出することができた。 ２．環境負荷最小化のための対処方法についての検討 　委員会活動の後半において、鉄筋コンクリート工事の各段階において環境負荷を最小化するための対処技術を明らかにすることができた。 ３．JASS 5 大改定に役立つ資料の作成 　環境配慮型 JASS 5 の試案を作成することができた。
委員会活動の問題点・課題	１．予算が少ないため、遠距離の委員を選出することができない。 ２．学会の予算システムが、成果物に伴う収益があまり還元されないものであるため、成果物を作成するためのインセンティブが働きにくい。